

## 学校経営推進費 評価報告書（2年め）

### 1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立北摂つばさ高等学校
取り組む課題	生徒の自立を支える教育の充実
評価指標	1 授業アンケートと学校教育自己診断における生徒の自己肯定感の獲得と学校生活満足度の向上 2 中途退学率の減少
計画名	心を鍛えるつばさチャレンジ

### 2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>2. 豊かな人間性と社会で生き抜く力の育成</p> <p>(1) 開発的カウンセリングの視点からの生徒の自己肯定感の育成</p> <p>ア. 教育相談体制の再構築と、カウンセリング的な手法を用いた、対話を中心とした生徒対応ができるように教職員の意識と行動の変容を促す。</p> <p>イ. 既発事業のスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー（以下 SC、SSW と表記）の協力を仰ぎながら新たに臨床心理士研修を導入。地域と連携した教育的な諸活動を通して双方向のコミュニケーション力を育成することを図る。</p> <p>ウ. ユニバーサルデザインの授業で生徒自身が学びへのモチベーションを高め、プレゼンテーション機器等を用いた自己発信力の向上をめざす。</p> <p>※ 学校教育自己診断アンケート（教員）「教育相談体制が整備」の肯定率を R4 年度までに 70%以上をめざす。（R1 年度 59%、R2 年度 78%、R3 年度 73%）</p>
事業目標	<p>【心を鍛える】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校教育自己診断、スタディーサポート等により生徒の自己肯定感の低さに起因する自己決定力の弱さという課題が見えた。希望の進路実現へつなぐためには自己肯定感の強化に主眼を置いた教育方針の打ち出しが急務である。</li> <li>・ 学校体制の方向性：従来の対処療法的な教育相談体制を脱して、すべての生徒が対象の開発的カウンセリング体制を構築することにより、少しのことで折れない強い心を持った、社会でたくましく生き抜くことができる生徒を育成する。</li> <li>・ 生徒・教員の変容：多様な価値観を基にしたさまざまな体験活動をととして自己有用感を実感する。</li> <li>・ わかりやすく魅力的な授業を提供することで、生徒の学びへの自己発信力を強化する。</li> <li>・ 人とのつながりを大切にしてコミュニケーション力を獲得する。</li> </ul>
整備した 設備・物品	箱庭（1セット）、箱庭置台、箱庭棚、Wi-Fi 環境の整備（ルーター、ケーブル）、iPad 20 台、iPad の鍵付き保管庫 2 台、iPad の保護シート
取組みの 主担・実施者	<p>主 担：首席、つばさチャレンジプロジェクト</p> <p>実施者：全教員を予定</p>
本年度の 取組内容	<p>【開発的カウンセリングの学年・分掌での活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リーダー教員が中心となり傾聴の手法等を教員へレクチャー。</li> <li>・ 心理学を中心にした教育相談便りを隔月発行。</li> <li>・ 教育相談室と交流ルームの整備と活用により、生徒の状況に応じた段階的支援の実施。</li> <li>・ 箱庭を活用した教員と生徒の合同研修 1 回。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各階の Wi-Fi 環境のあるスポット教室で開発的カウンセリング（自己肯定感を高める）研修を各学期 1 回実施。</li> <li>・ プレゼンテーション等ができる授業ではスポット教室を積極的に活用。</li> <li>・ ユニバーサルデザイン授業改善では地域の異校種を巻き込んだ授業の研究協議を年 1 回、情報共有を年 3 回。</li> <li>・ 生徒会役員等の指導のもと生徒が各学年会を運営し、学年行事に取り組むことでコミュニケーション力の向上をめざす。</li> </ul>
<b>成果の検証方法 と評価指標</b>	<p>1 ① 学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」「様々な活動を通して自信がもてるようになった」の項目を 60% 以上。</p> <p>② 本校のいじめ防止自己診断アンケート第 1 象限（他者理解）75%以上、第 4 象限（他者への無関心）10%以下。</p> <p>2 成績不振による中退者を前年度比 25%減少。</p>
<b>自己評価</b>	<p>1 ① 学校教育自己診断の以下の項目について目標を達成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「学校へ行くのが楽しい」生徒 80%（前年度比+2p）保護者 74%（前年度比-4p） ・ (○)</li> <li>・ 「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」66%（前年度比+4p） (○)</li> <li>・ 「様々な活動を通して自信がもてるようになった」64%（前年度比+7p） … (○)</li> </ul> <p>また、次の項目においても昨年度と比較して値が上昇した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「困っていることに真剣に先生は対応してくれる」生徒 83%（前年度比+7p） …… (○)</li> <li>・ 「先生はプライバシーや知られたくない秘密を守ってくれる」生徒 86%（前年度比+5p） …… (○)</li> <li>・ 「この学校ではカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」教員 78%（前年度比+9p） …… (○)</li> <li>・ 「教職員は生徒の意見をよく聞いている」教員 82%（前年度比+12p） …… (◎)</li> <li>・ 「先生は生徒の意見をよく聞いてくれる」生徒 82%（前年度比+8p） …… (○)</li> <li>・ 「悩みや相談に親身に応じてくれる先生が多い」生徒 80%（前年度比+10p） … (◎)</li> </ul> <p>プレゼンテーション能力を高めるため学校外での活動（フィールドワーク）も多く取り入れた。社会文化コミュニケーションコースの授業内アンケートによると、コースでの満足度が 95.8%と高い数値となった。</p> <p>② 本校独自のいじめ防止診断アンケートを紙形式から結果をリアルタイムで生徒の意見が集約できるオンライン形式に変更した。質問項目が若干変更となったが、好ましくない行動に対する生徒の意識調査を実施することができた。関連する項目として、第 1 象限（他者理解）に関係する数値は 77%となり、第 4 象限（他者への無関心）に関係する数値は 10%となった。今後もアンケートを取りながら都度、教員からのコメントをフィードバックさせる形式で実施予定。 …… (○)</p> <p>2 成績不振による中退者を 34%減少させることができた。 …… (○)</p>
<b>次年度に向けて</b>	<p>取組みの 3 年めとなるため、できるだけ生徒主体の活動を増やしていきたいと考えている。</p>

### 3. 事業費報告

今年度事業費総額	2,580	円
----------	-------	---

#### 積算内訳

\* 決算科目（節）を明示し、節毎に積算内訳を記載すること。

積算内訳	科目（節）	番号	内訳	単価	数量	金額
	1 報償費		1			
		2				
		3				
					小計	0
2 旅費		1	先行事例の視察	¥2,580	1	¥2,580
		2				
		3				
					小計	2580
3 消耗需用費		1				
		2				
		3				
					小計	0
4 維持需用費		1				
		2				
		3				
					小計	0
5 役務費		1				
		2				
		3				
					小計	0
6 委託料		1				
		2				
		3				
					小計	0
7 使用料 及び賃借料		1				
		2				
		3				
					小計	0
8 備品購入費		1				
		2				
		3				
					小計	0
9 工事請負費		1				
		2				
		3				
					小計	0
10 負担金・補助 及び交付金		1				
		2				
		3				
					小計	0
					合計	¥2,580